

渋谷のまちに飛び出し、実践と出会いのなかで育てる高校へ。

NPOと協働した、新たな実践的カリキュラムをはじめます。

今年2018年夏より、NPO法人青春基地（代表理事・石黒和己）は、東京都立第一商業高校（校長・大林誠）とともに、商業教育の改革をすすめるリーダー校として地域・産業と接続した学校づくりの実現を目指して、実践的な学びとして「プロジェクト型学習（PjBL）」のカリキュラム導入などを行う、3年間の協働をスタートいたします。



■都立第一商業高校とは

代官山に位置し、1918年に開校した100年間の歴史ある都会の商業高校。普通科と比べてビジネスに関する知識・技能について重点的に学ぶ。卒業後の進路は、大学・専門学校等の進学が7割、就職3割と多様。

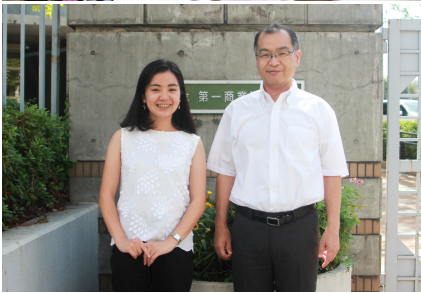
■実施の背景・概要

昨年度の東京都商業教育検討委員会の発足を背景に、「地域や産業界との連携を通じた実践的な学びを積極的に進めていきたい」と先生からお声がけいただいたことをきっかけに協働がスタート。

今年度では、以下の枠組みのなかで、生徒一人ひとりの好奇心から、渋谷独自のカルチャー・産業・ヒトに焦点をあてたフィールドワークや企画づくり・取材を実施。来年度では1年生に加え、2・3年次の通年プログラムの実施も予定。

今年度の対象：1年生全クラス・約200名

科目：ビジネス基礎（必修・毎週×10コマを予定）



写真上：プレ実施した社会人との対話WSの様子
写真下：大林誠校長(右)と代表石黒和己(左)

本事業のはじまりによせて：都立第一商業高校校長・大林誠先生より

私が委員を務めた「商業教育検討委員会」では、変化の激しい昨今の社会においては「ビジネスを考え、動かし、変えていくことができる力」を備えた人材が求められていることから、より実践的な商業教育を展開する必要があるとして、商業教育改革を進めることにしました。具体的な取組としては、1年生の授業で東京都独自の補助教材である「東京のビジネス」を活用し、創造的な能力や実践的な態度を醸成していく学びを実施していきます。さらに来年度以降には、2年生での「ビジネスアイデア」や3年生での「課題研究」などの授業においても実践的な学びを実施する予定で、三年間連続したカリキュラムを展開していきます。こうした授業での協働を通じて、地域の経済を支える人材を育成し、地域から期待される学校づくりを目指していきたいと思っております。

NPO法人青春基地とは



写真：授業を担う学生の様子

「生まれ育った環境をこえて、一人ひとりに想定外の未来をつくる」

全国の公立高校の授業と放課後を通じ、校舎を飛び出して出会いと経験のなかで学んでいく新しい学び「Project Based Learning (PjBL)」を届けるNPOです。本取り組みでは、カリキュラムデザインと豊富な学生・社会人メンターによる授業運営だけでなく、渋谷を中心とした豊富な人や文化を繋ぐコーディネートを担います。

【本件に関する問い合わせ先】

特定非営利活動法人 青春基地（広報担当：古賀）

<http://seishun.co>

電話：080-5151-9924（代表直通） mail: info@seishun.style

【取材申し込み】

*取材をご希望の際は、メールにて申込みをお願いいたします。